

## 二期目に向けて

鎌田英明



去年の今頃自分はいったい何をしていたらどうか。思い出してみても、多くの場合は明確に思い出すことができない。たぶん「何もしないうちに日が暮れ、あっという間に1週間が過ぎ、気づいたらもう1年が終わっていた」という、ほとんどはそんな毎日だったと言えるかもしれない。

これは今年に限ったことではなく、この10年ほど同じように1年が過ぎて行き、しかもそれが加速度的に早くなって行く気がしてならない。巷では「歳を取ると月日が経つのが早い」という話をよく耳にする。私自身がまだ若い（と思えた）頃からご高齢の患者さんと話している時によく聞かされ、今でもよく聞くフレーズでもあるが、最近ではそれを共感しながら聞く毎日である。

実際に早くなっているのだろうか、地球の自転をはじめ天体の運行は銀河系の誕生のころに比べまわってきているとは聞かない。ではなぜそんな風に感ずるのだろうか、おそらくは私が子供のころに比べ、1日の中での情報量の増加があるのではないだろうか。たとえば新聞、雑誌、テレビ、それに加えインターネットといった新たな情報源も発達し、テレビは見るともなしについつい見てしまうことも多く、パソコンやスマホ（携帯も含む）を操作する時間もまた過去にはなかった時間の使い方であり、気付くといつの間にか日が暮れていくということになる。

その毎日が無駄の繰り返しとは思いたくないが、振り返ってみてもほとんど思い出せないというのはいかにも寂しい。世の中には感心するほど記憶力の良い人間がいることは確かである。その種の人たちは毎日の出来事を覚えているのであろうか。しかし、

忘れないということも逆に苦しいことなのかもしれない。日々良いことばかり起こっているわけではないであろうから。

しかし、今年ばかりは記憶に残る年になるのではないかと思っている。

この稿を書いているのは3月であるが、この『神皮』が発刊される7月までの間の4月26日～27日に日臨皮総会が横浜で開催されているはずだ。

思えば、総会の準備に取り掛かったのは3年以上前であった。もう3年経ったのか、その間に何をしていたのだろうという案の定思い出せないくらいだが、この稿を書いている現在は正に尻に火が付いた感があり、もっと前から進めておくべきだったという反省の日々でもある。

しかし、学会を担当した中で、改めてありがたく思ったのが、歴代の会長を始めとする神皮をこまめに育ててこられた偉大な先達が残してくださった物心両面での伝統の力であった。深く感謝するとともに、我々も次代の神皮会員のために努力しなければならないと思う日々ともなった。

その神皮もこの『神皮』が出る7月には我々が執行部となって早くも1期2年が終わる。1期目は日臨皮総会の準備に紛れ、本来の神皮の活動が隠れてしまった感もあり、これからの2期目が会長としての私と執行部が真の評価を受けることになるわけで、改めて気を引き締めなければならないと思っている。

とりあえずは、日臨皮総会を笑顔で終わらせ、その後の神皮の活動も記憶に残る日々ができるよう気持ちを新たに頑張りたいと思う。